



2020年新事業年度スタート

本事業年度の抱負

昨年より、中村社長体制に代わり本年度はグループにとっても非常に大事な年度となります。残念ながら、スタートは世界を震撼するコロナウィルスによりスロースタートとなる見込みであるが、昨年からの営業が身を身を結び本年度はグループ内における技術開発担当会社として、グループをバックアップしていく方針である。特に、事業の柱として燃料事業、おむつ事業、活性炭事業に関しては今年度運開、もしくは実証事業が控えているため、さらなる研磨と努力があると強く感じている。

燃料事業

本年度、本格的にグループとしてPKS並びにペレット事業には本格的に参入を行っていく。本年度後半にはそれぞれの燃料を日本へ輸出する運びとなっている。

おむつ事業

現在、インドネシアにおいて問題となっているごみ問題の一つのである、使用済みおむつのリサイクル並びに処理方法に関する技術開発を行っている。おむつの処理と聞くとあまり、日本ではなじみがないかと思われそうですが、日本は焼却施設が多く、使い捨ておむつは基本的には

焼却して捨てるのが日本でのやり方です。

しかし、インドネシアのような後進国は焼却炉がないため、ごみは埋め立てを行う必要があります。紙おむつの需要は後進国では近年爆発的に増加しており、その廃棄物量も年々増えています。

そこで、弊社グループではSDGsに則った循環型の処理方法を構築すべく、生物分解処理と機械処理に関して研究開発を行っており、弊社では、本年度9月には実証機を設置する目標で技術開発を行っている。今後続報にて報告します。

活性炭事業

昨年より、取り組んでいる活性炭事業であるが、本年度より、熊本県立大学と強く連携を行い、事業を推進していく。

熊本県に今後活性炭の研究施設が立つことになる。弊社としても、今までの知見を用いて研究施設の監修や共同事業などに取り組んでいく。特に本事業では、装置の特許取得や学術的な論文発表を含めて事業を行っていく。本年度後半に運開できるよう事業を進めている。

他の事業

他にもインドネシアを中心に様々な事業展開を行っている。詳細については次号以降報告させていただきます。